

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人友和会		
事業所名	グループホームピアポート千寿苑		
所在地	千葉県千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成22年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設は電車やモノレールの駅から徒歩圏内で、ご家族やご友人が来苑するのに非常に便利な場所がございます。窓ガラスに季節の飾り付けをしたり、様々な行事を計画したりと、普段から明るい雰囲気作りが心がけています。館内はすべてバリアフリーなので、入居後にお体が不自由になっても、ご希望によってはそのまま継続して生活していただくことができます。デイサービスセンターや特別養護老人ホームが併設されているので、一緒に行事やクラブ活動を行うこともあり、様々な人と交流を持てます。現在入居されている方は車椅子の方がほとんどですが、都市部の利便性を活かして近所のレストランへ外食しに行ったり、今年度は電車に乗って水族館や遊園地へ遊びに行ったりもしました。今後も入居されている皆様が楽しく暮らせるよう、職員一同努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの運営母体である社会福祉法人友和会は1984年に設立され、多くの社会貢献の足跡を残してきたが、その功績が高く評価され昨年末に皇室からお下賜金を拝受する栄誉を受けた。当ホームはその本部のある都市型高齢者施設「ピアポート千寿苑」の2階にあり、特養・ショートステイ・デイサービス等の関係サービスの施設や職員と連携を図りながら、住みなれた市街地の中で安心して最後まで過ごせるように努めている。開設後丸4年を迎えるが、本年度からは看取りの体制を整える等、着実にサービス内容を充実し利用者の満足度も年々向上している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しくその人らしい暮らしの中で喜びと自信を育てましょう」という施設理念をユニット内に掲示し、いつでも見られるようにしている。	当ホームの理念はホーム設立の精神を表したものである。理事長の自筆の理念が各ユニット入り口に掲げられ、会議やミーティングの都度確認し合い実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地元の花火大会や地域の祭りに参加したり、施設の行事に地域住民がボランティアで参加して下さっている。また、グループホームと同じフロアにある地域交流室を近隣の自治会や子供会の集会に使っていただいている。	ホームは千葉港に隣接して新しく開発された地域に立地している。施設内の地域交流室は隣接の複数のマンションの自治会や子供会の活動拠点となっており、地域住民の来所も多い。お祭りなどの行事にも参加し、良い関係が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症メモリーウォークに利用者職員が一緒に参加し、認知症に対する理解を地域の人々に呼びかけた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議では看取りの指針についてご家族にご意見をいただき、施設内の看取り研修に反映させた。	千葉市介護相談員や民生委員の参加を得て、本年度は3回(3テーマ)開催した。年度初めには看取り指針作成にあたり、全家族の参加を得る為に同じ内容で3回開催する等、テーマにより強弱をつけた運営をしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市GH連絡会の市担当者との懇談会に参加。また、運営や届出等で不明な点は、その都度市担当者に相談しながら解決している。	理事長が千葉市グループホーム連絡会の会長、ホーム長がその事務局をつとめており、行政との橋渡し役をしている。市高齢施設課とは諸申請や運営上の諸問題につき都度相談している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、職員が身体拘束に関する正しい知識を得られるようにしている。身体拘束に関わる研修を修了した職員を中心に、ユニット会議の際に身体拘束について施設内研修を行なっている。	県の身体拘束排止研修専門課程を修了した職員を中心に施設内研修を行っているが、今年は新たに1名同研修の基礎課程を受講し、身体拘束についての理解を深めて拘束感を与えないように努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、職員が身体拘束に関する正しい知識を得られるようにしている。今年度は管理者が認知症介護研究・研修仙台センター主催の高齢者虐待防止教育システム研修に参加したため、その資料を活用し、施設内研修を開催する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要と思われるご家族には社会福祉士の職員が成年後見制度の活用について紹介している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前面接時、体験利用時、入居時と数回にわたり説明・相談できる機会をつくり、利用者や家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、市介護相談員の訪問など、職員だけでなく管理者や外部の人にも不満や苦情を言いやすい環境を作っている。	家族の来訪時に良く話を伺うことを基本としているが、全体の運営に関することは運営推進会議等のテーマとして取上げ話し合っている。また、毎月の便りに市介護相談員の来所日を連絡し、職員に直接話し難いことも相談員を通じて受け止めるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の人事考課を行う際に、職員の意見や提案が理事長まで届くようにしている。	提案事項は細かいことでも職員間の申し送り帳に書くようにしており、毎日のミーティングやユニットごとの定例会議(2ヶ月に1度)でも話し合っている。人事考課の時の資料にも運営に関する意見が記述できるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年に2回人事考課を行い、職員個々の努力や実績、各管理者から見た勤務状況を把握できるようにしている。職員がやりがいを持って働けるように、施設内外の研修に参加しやすいよう参加費を施設が負担したり業務の中で出られるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要に応じて施設内外の研修に参加させている。未経験者も採用し、業務の中で必要な知識・技術が習得できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会が主催する研修や交流会に参加し、他施設の管理者や職員と交流し、情報交換できる場を持っている。また、併設する特養と一緒に行事を行い、職員同士が交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時や体験利用時にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から情報を収集し、安心して生活が始められるよう配慮している。入居後もご本人やご家族から話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時や体験利用時にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から情報を収集し、安心して生活が始められるよう配慮している。入居後もご本人やご家族から話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、他のサービスの利用の可能性を含め、今後の生活について相談している。また、入居前の体験利用を勧め、その時の様子をふまえ、必要に応じて入居後もグループホーム以外のサービスも利用できるよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの運営にあたり、入居者の方に相談したり、職員が日々の悩みを相談したり、支えあいながら生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院の付き添いをお願いしたり、来苑時に食事の介助をしていただくなど、職員と一緒にご本人を支えていただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人に面会協力を依頼したり、入居間もない人には外出、外泊の協力をお願いし、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	馴染みの関係を維持する為に、家族にお願いして、知人との面会や外出、お墓参り等に出かけたりしている。ホームでは電話の取次ぎや、職員が手紙を読んであげたりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う人同士で食事の席が近くなるよう工夫をするなど、利用者同士がコミュニケーションをとりやすいように工夫している。話すことが難しい人同士でも、職員が間に入ることによってコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院している医療機関に面会に行ったり、利用者やご家族と退院後の生活について相談し、必要に応じて関係機関と調整をとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望を表出することが難しい人がとても多いが、ご本人の表情や行動から希望を推察し、支援できるように配慮している。	日常の利用者の行動や会話から汲み取ることが多い。又家族の面談時などにも把握するようにしている。困難な利用者には職員間の研修でどう対応すれば納得するかなどをテーマに話し合い意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、ご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の様子から総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の処遇について、ご本人やご家族から希望を伺い、スタッフ間で相談し、介護計画を作成している。現状に変化が無い場合も、モニタリングを行い、現在行われているサービスが適切かどうか確認している。	生活歴や環境を書き込んだフェイスシートや、家族からの意向や希望を取り入れアセスメントし、職員とも話し合っって介護計画を作成している。ケア会議は毎月行い、職員間の申し送りノートも参考にモニタリングをして見直しを行い、本人本位の介護計画になるように努力している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として個別に記録し、サービス担当者会議の際に資料として役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設特養に協力してもらいクラブ活動に参加したり、必要に応じて併設デイサービスセンターのサービスが受けられるように支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる歌や踊りを観賞したり、生活が豊かで楽しいものになるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族で相談し、決めていただいている。通院する際は職員が付き添うか、必要な情報をご家族に説明した上で付き添っていただき、適切な医療が受けられるよう支援している。入居後、施設の往診医にかかりつけ医を変更する場合は、入居前のかかりつけ医から引き継ぎが円滑に進むよう配慮している。	家族と話し合いの上、当ホームの協力病院をかかりつけ医としている利用者が殆んどである。それ以外の利用者は原則として家族が同行して受診している。協力病院からは週2回、歯科医も毎週往診があり、アンケートからも健康管理がしっかりしていると評価されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の変化に気づいたときは看護師に報告し、必要な対応について指示を受けている。特に変化が無くても、看護職員により日々の健康管理を行い、早期に適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は医療機関へフェースシートや看護サマリーを提出し、入院後の治療や看護に役立ててもらっている。入院中も職員が訪問し、医師や看護師と今後の治療や生活に必要なものなどについて相談し、退院後の生活が安心して送れるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	元気なうちから看取りに関する希望確認書を提出していただき、重度化した場合や終末期の過ごし方について相談するようにしている。また、今年度は運営推進会議でご家族へ施設で行える医療行為などについて説明を行った。	今年度から医療連携加算ができるようになり、運営推進会議でも終末期におけるホームでの対応を説明をしている。又、入居時に看取りに関する希望確認書を取り交わし、家族からの同意を得ている。又利用者が重度化した場合には確認しながら対応している。	介護度の高い利用者が多いように思われますので、併設の施設や関係者とも連携を密にして引き続き看取りに関する支援にご尽力されることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	急変や事故発生時の対応について、対応訓練を行った。緊急時のマニュアルについても職員が閲覧しやすい場所に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設や宿直者と協力しながら、消防署の指導の下、利用者と職員と一緒に参加し、定期的に避難訓練を行っている。今年度は消火器の使用方法についても訓練を行った。	避難訓練は年2回実施している。今年の自主訓練では利用者、職員と一緒に救急車要請の電話のかけ方などの訓練も行った。施設内にはスプリンクラー他、防災設備の面でも充実しており、利用者は安心して居住できるようにしている。	ホームを設立して4年、地域住民との交流を積極的に行っておられますので、災害時についての協力体制などについての話し合いも是非お願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は外部の人から見られないように保管している。失禁して着替えた衣類をそれとわからないように運んだりするなど、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。不適切な対応がないように、職員同士も注意している。	意思表示の困難な利用者が多いが、誇りやプライバシーに配慮した対応をするように職員同士で注意し合っている。大声で話さないようにするなどして、トイレの誘導やオムツ交換時も周囲に気配りした対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出しやすいように言葉かけを工夫したり、何か行う際は事前に説明し、自分で決めたり納得しながら暮らせるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的に何かに参加したりするのではなく、ご本人の希望を伺いながら、ご自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をするのが難しい人の代わりに職員が眉を描いたり、髪型を工夫するなど、ご本人に代わりおしゃれができるよう支援している。ご自分で希望を言うことができる人には、訪問理容に申込み、自分の好きな髪形ができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残念ながら一緒に準備や片付けができる人はほとんどいない。一人、一緒に片付けができる人がいるので、職員と一緒に片付けをしていただいている。食事が楽しみなものになるよう、朝食でパンを選べたり、定期的に栄養士が嗜好調査を行っている。	半年に一度、利用者の嗜好調査をして好みのものを聞き、食事の記録などからも把握し献立をたてている。食事は併設の厨房から運ばれてくるが、誕生日会にはオードブルなども用意され楽しい食事になるようにしている。また近くのホテルでランチバイキングや地域の夏祭り家族と一緒にの外出なども行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量が一日を通じて確保されているか、毎日チェックしている。一人ひとりの状態に応じて、水分にトロミをつけたり、刻み食やペースト食、ゼリー食を提供し、十分な栄養が得られるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、ブラッシングのほか歯磨きティッシュを使用して口腔ケアを行っている。ご自分で義歯の管理ができない人は、夕食後職員がお預かりし、義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの一日の排泄パターンを確認し、それに合わせてトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	利用者ごとの排泄チェック表により、パターンを確認して、トイレで排泄できるようにしている。夜間はオムツをするが日中はなるべくリハビリパンツにして自立できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行できない人に対しても、水分摂取を促したり、食物繊維を多く含む食事を勧めるなど、自然な排泄がうながされるよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全員が入浴時に介助を要するため、現在は職員が複数いる10時から16時の間に入浴していただいている。その時間帯の中で、一人ひとりに希望を聞きながら入浴していただいている。必要に応じて併設施設の特殊浴槽やリフト浴を借りて入浴を行っている。	入浴は週3回職員が多い日中に行っている。介助を必要とする利用者が殆んどであり、併設の施設内の特殊浴槽などを利用することもある。職員は利用者とは話を交わしながら介助し、季節によっては菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室で休んでいただいたり、リビングのソファで休んでいただくなど、思い思いに過ごしていただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容に変化があった場合は職員が把握できるよう送りノートに記載し、各自確認できるようにしている。また、薬の情報が載っている資料をファイルに整理し、薬の保管庫に保存し、いつでも確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に掃除をしたり洗濯物をたたむなど、日常での役割を持って生活していただいたり、心身の状態によりそのような活動が難しい人も、職員と一緒に外出・外食したり、レクリエーションを楽しむなどして生活の中に楽しみをみつけられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能的に一人での外出ができない人がほとんどのため、個別にその日の希望で出かけるのをすべての利用者に支援するのは難しい。希望を聞きながら外出行事を計画し、職員と一緒に外出することはある。去年は公共交通機関を利用し、遊園地と水族館へ出かけた。	毎日ではないが、散歩日和には近くの公園や、神社に出かけている。周辺には商店も多く、スーパーや喫茶店に出かけたりしている。又、地域で開催される夏祭りや花火大会には家族と一緒に出かけることもある。	介護度の高い利用者が多くご苦労されているが、家族の協力も得ての外出や、広い建物内の共用スペース利用の散歩等もあわせて検討願いたい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に支払う機会があるときは、その能力に応じて支払いをお願いすることがある。また、自分でお金を管理している人もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から届いた手紙を、文字が読めない人の代わりに職員が読んだり。希望があれば施設の電話をお貸しして、好きなところに電話がかけられるように支援している。	
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部では季節に合った飾り付けをしたり、不快にならないように掃除をし、快適に過ごせるようにしている。時間帯に合わせて照明やロールカーテンで明るさの調整をしている。	利用者が日常過ごす居間や食堂、廊下は木製の家具やベンチが置かれ、照明なども間接的で落ち着いた雰囲気である。又、広くて余裕のある2ユニット共有のパブリックスペースはガラス張りである。誕生会や家族の面会場所・地域の交流の場所としても利用されている。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に自由に使えるソファやテーブル、椅子などを設置し、思い思いに過ごせるように工夫している。	
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく暮らせるよう、ご家族にお願いして馴れ親しんだものを置いていただけるように工夫している。	居室には、洋服ダンス、テーブル、洗面台などが備え付けてあり、ナースコールも利用できるようになっている。家族の写真や、大きなソファ、加湿器などが持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、トイレに可動式の手すりが設置してあるなど、車椅子でも安全に生活できるように工夫されている。また、自立歩行できる人に対しては、トイレの場所をわかりやすくするための掲示物を工夫したり、ユニット内を歩行中にいつでも休憩できるよう廊下の途中に椅子やソファを置くなど、安全に移動できるよう配慮している。	